


ふりがな 氏名	いづか あやこ 飯塚 綾子	都道府県	東京都	
所属/肩書	公立小学校（東京都）情緒障害通級指導学級 講師			
私のESD活動	発達障害の子ども達のサポートを通して、多様性と共存を認め合えるような教育活動を目指しています			
ESD活動を表すキーワード	人権	多様性	共存	

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私は公立小学校の特別支援学級の固定指導学級と通級指導学級という学級で、主に情緒の発達障害を持つ子ども達の教育支援に携わっています。最近注目されている、自閉症、アスペルガー症候群、ADHD、LDの症状を持つ子ども達を、今後どのように学校教育の中に取り入れていくか、そして、将来的に社会の中に順応させていくか、という取り組みが為されています。特別支援学級の情緒障害に対する教育的な取り組みは、昔では理解されにくかった発達障害を持つ子どもに対して、その子どもの持っている独自の個性や創造性、また適性を無理に通常の学級に入れさせるのではなく、出来る範囲で公共教育に馴染ませ、その子ども達を認めてあげるといった活動に大きな意味があると考えます。その方法としては、子どもと親身に向き合い、純粋な気持ちで寄り添い、認めてあげることが大切であり、たくさん褒めてあげる教育支援が大切です。成果としては、子どもの自尊心が満たされ、次はこんなことに挑戦してみようという学習意欲に繋がります。また、このような教育指導は通常級の子ども達にも同様の成果をもたらします。時には愛情をもって叱ることも必要ですが、褒めて認めてあげることがどれほど重要か、この学級の子ども達から学んでいます。しかし、支援学級の子どもの難しいところは、本当に繊細で、感受性が鋭く敏感なところです。自分の得意な分野に取り組んでいるときは、素晴らしい集中力と才能を発揮しますが、物事の切り替えや、順応という面で、工夫と周囲の理解が不可欠です。学級としての教育的取り組みからの理解だけではなく、様々な意味での多様性や個性を認め合う教育活動が必要だと感じています。

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？

1年間アメリカ留学をした経験から、自分のルーツに真剣に向き合ったことや、公立小学校の特別支援の教育活動から、自分の中の多様性に向き合うことの重要性を改めて考えました。また、多文化共生センターで、ボランティアの活動に携わったこともあり、そこから、多文化共生における教育の重要性も感じました。

様々な立場や状況で、今現在、日本という国で教育を受けている子どもたちに、自分の中にある多様性を感じさせ、そして個性として認めてあげる教育活動の展開が重要になるのではないかと考えています。それは、外国人だからとか、ハーフだからとか、発達障害だからなどの枠組みで考えるのではなく、今日本で共存しているという事実から、どこまで価値観を共有できるか、そして自尊心をもち、お互いに感動を共有し合えるかが、鍵になってくるのではないかと感じます。今後、私自身のルーツからも、多様性から始まる価値観の共有を考えていきたいと思っています。